

彙報 (2016)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 公開日: 2017-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/0000000193

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



所員

専任教員

時田アリソン TOKITA Alison

役職：所長

専門：音楽学・日本の語り物芸能

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

山田 智恵子 YAMADA Chieko

役職：教授

専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

田鍬 智志 TAKWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：准教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHE Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

客員教授

徳丸 吉彦 TOKUMARU Yoshihiko

専門：音楽学

竹本 駒之助 TAKEMOTO Komanosuke

専門：義太夫節

今藤 政太郎 IMAFUJI Masataro

専門：長唄

2017年4月より 安田登氏が客員教授に就任しました。

非常勤講師

梶丸 岳 KAJIMARU Gaku

担当：特別研究員

専門：文化人類学・民族音楽学

竹内 直 TAKEUCHI Nao

担当：特別研究員

専門：現代音楽論・日本近代洋楽史

中安 真理 NAKAYASU Mari (2016年4月新任)

担当：特別研究員

専門：美術史・音楽図像学

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

非常勤嘱託員

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi (2016年4月新任)

担当：司書

客員研究員

丹羽 幸江 NIWA Yukie

受入期間：2014年12月1日から2017年3月31日まで

所属：日本学術振興会特別研究員 (RPD)

研究課題：祝詞の音楽研究と能の楽譜研究

受入教員：藤田隆則

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

受入期間：2014年12月1日から2017年3月31日まで

研究課題：能の略式演奏の歴史と現在

受入教員：藤田隆則

前島 美保 MAESHIMA Miho

受入期間：2015年10月1日から2017年11月9日まで

研究課題：歌舞伎囃子に関する劇書・伝書の研究

受入教員：竹内有一

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

受入期間：2016年4月1日から2018年3月31日まで

研究課題：SPレコードの書誌的研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

受入期間：2016年4月1日から2017年3月31日まで

研究課題：人形浄瑠璃文案の近世後期上演記録データベース更新に係る追補的資料研究

受入教員：山田智恵子

学振受入研究員

丹羽幸江 NIWA Yukie

上記の通り

前島 美保 MAESHIMA Miho

上記の通り

共同研究員

計43名（所員を除く）。研究テーマ・氏名・所属先等は「活動報告1」に記した。

委託研究

委託者：上野正章

テーマ：明治後期『京都日出新聞』芸能記事のデータベース化

概要：京都市内で発行された『京都日出新聞』（現『京都新聞』の前身）の明治後期の芸能記事から、主に能楽関係の記事を調査研究、収集して、それをデータベース化する。研究成果の一部は、インターネットにより公開する。今年度は、明治40年より44年までの、能・狂言を中心とした芸能記事を対象とする。

展 観

会場：新研究棟 7階展観ブース

(1) 「日本の楽器」

平成27年8月16日（火）～平成29年1月20日（金）

内容：でんおん連続講座E「PENDULUM II 英語による日本音楽概論」の開催に際し、講座内で解説する日本の楽器を展示しました。

展示内の解説は日本語ですが、英語による展示解説を配布しました。

一部の楽器については無線LANにて音声データを配信し、各自の携帯端末で楽器の音を聴けるようにしました。



(2) 「常磐津正本の修復と書誌的研究－保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる－

平成29年2月3日（金）～

内容：2015年、常磐津節家元より新出の常磐津節正本の初演本が発見されました。正本、とくに初演本は演奏と伝承のルーツを示す起点であり、学術研究の土台となる資料です。

しかしこの資料は虫損が甚だしく、開くことすらままなりません。この資料を百年後、千年後への良好な保全を果たすためには中損の修復が必要です。そこで、本学の大学院美術研究科保存科学専攻の宇野茂男教授と大学院生と共同で修復および研究をすることとなりました。

本展示では新出の常磐津節正本の概要と、2016年に実施した、修復の手順および作業の様子、修復作業に用いた道具などを展示しました。



(3) 「七弦琴の世界～江戸時代の琴文化嗜好～」

平成29年2月10日（金）～

内容：琴（七弦琴/古琴）は中国の伝統音楽・楽器で

す。「琴」の字はそもそも箱型の胴に7本の弦を張ったこの種の楽器を指しています。古来「琴」と呼ばれてきましたが、他の楽器と区別するために「七弦琴」と呼ばれるようにもなりました。近年中国では「古琴」とも呼ばれます。

琴は中国の神話に登場する神、伏羲が創造したとされ、少なくとも春秋時代（B.C.770～B.C.403）にはすでに演奏習慣があったことが『詩経』などの資料から伺えます。それ以降現在まで絶えることなく演奏され、愛好され続けてきました。

日本でも琴は平安時代と江戸時代に親しまれていました。本展観では、中国の琴文化の紹介と、江戸の琴文化の一例を紹介します。



出版物 一書籍一

『日本伝統音楽研究』第13号

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究紀要、
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、
2016年6月30日、A4横組・縦組 222pp

内容：＜特集：伝音センター15周年＞

15年のあゆみを振り返り、展望する 時田アリソン
日本伝統音楽研究センター十五年史 東正子

＜論文＞

武内恵美子「弘前藩主の楽」

山田淳平「近世三方楽所の成立過程」

土田牧子「SPレコードに遺された小芝居の実態をめぐる一考察 一中村歌扇の録音における義太夫節（竹本）とセリフを例に」

時田アリソン「浪花節における口頭性―「太閤記」も

の場合一」

上野正章「藤原義江の演奏旅行から見る昭和2年秋の札幌、

盛岡、秋田における西洋音楽のローカライズについて」
梶丸岳「掛唄で歌われることはなにか 一計量テキスト分析による掛唄の話題抽出の試み一」

＜研究ノート＞

高橋葉子「江戸中期における謡曲音階論の形成 一岩井直恒の十段音法を考察する一」

遠藤徹「江戸時代の呂律と催馬楽の復興」

前島美保「江戸中期上方の大切所作事考 一詞章にみる江戸との関わり一」

彙報、活動記録1 プロジェクト研究・共同研究、活動記録2 特別研究員、活動記録3 専任教員大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻

雅楽・舞楽および関連芸能のいまとむかし共同研究会（代表 田鋏智志）編『翻刻 雅楽小辞典 一南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）一』

日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究報告10「翻刻 雅楽小辞典 一南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）一」を出版いたしました。

〔内容〕

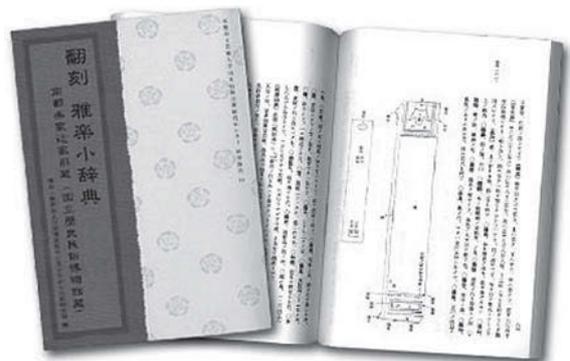
『雅楽小辞典』の概要 遠藤 徹

凡例、本辞典の使い方、翻刻 雅楽小辞典

（巻末楽器図）、小項目・歴史的かな遣い・別名・対照一覧

刊行日：平成28年3月31日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



藤田隆則・高橋葉子・丹羽幸江編 『謡を楽しむ文化 一京都の謡の風景一』

日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究報告 11 「謡を楽しむ文化 一京都の謡の風景一」を出版いたしました。

〔内容〕

序 藤田隆則

第一部 岩井家旧蔵資料

岩井家旧蔵資料目録 恵阪 悟 編

展観「京観世岩井家の歴史」 田草川 みずき 編

『元禄年間能組控』 解題と翻刻 恵阪 悟

『能難子心得』 解題と翻刻 高橋 葉子

第二部 岩井家と謡の文化

岩井直恒音曲伝書『あやはとり』 解題と謙刻 大谷節子・高橋葉子

『そなへはた』を現代語訳する試み 一序文、凡例、音の部、吟の部 1— 藤田 隆則・丹羽 幸江・高橋 葉子
『岩井家所蔵目録』をめぐる文化的状況 一所載宴曲
関連書目の再検討 1— 岡田 三津子

能《逆矛》考一構造・作者・藝態の変遷— 味方 健

第三部 近代の謡の文化

『京都日出新聞』から辿る明治 41 年 (1908) の京都の謡曲界 上野 正章

福王流平岡家一門の素謡番組 一近代における京都素謡会の片鱗— 中尾 薫

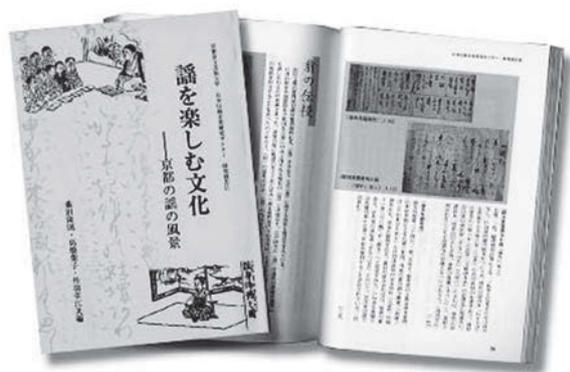
オリエントの謡曲 SP レコード 大西 秀紀

プロジェクト研究「京観世の記録化」の開催記録 上野正章 編

あとがき 丹羽 幸江 / 高橋 葉子

刊行日：平成 28 年 10 月 31 日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



山田智恵子『義太夫節の語りにおける規範と変形—地合の音楽学的研究—』

日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究叢書 2 として『義太夫節の語りにおける規範と変形—地合の音楽学的研究—』を出版いたしました。

〔内容〕

所長挨拶、まえがき、目次、凡例、序章、

前編 義太夫節の音楽構造と音楽の視覚化

第 1 章 義太夫節の音楽構造—地合とは何か

第 1 節 義太夫節の劇構成と音楽構成

第 2 節 義太夫節における旋律様式の問題

第 2 章 義太夫節研究における音楽の視覚化

第 1 節 伝統的楽譜

第 2 節 教本

第 3 節 音楽学的な視覚化の方法

後編 演奏の実際—その変形と規範

第 3 章 同一曲における演奏者による変形

第 1 節 比較の方法

第 2 節 変形の在処

第 3 章 付録〈御殿の段〉楽句の詞章と節章

第 4 章 地合における規範

第 1 節 規範の枠組み

第 2 節 常の地における規範

結章 語義が規定するもの

謝辞、引用文献、譜例音源一覧、論文内容の梗概、Dissertation Abstract、付録楽譜〈伽羅先代萩・御殿の段〉(豊竹山城少掾・四世鶴沢清六)、あとがき、「三絃十二調子之事」(岡田 1902『義太夫三味線両秘伝』より)

刊行日：平成 29 年 3 月 31 日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



—DVD—

義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る (DVD)

日本伝統音楽研究センターでは平成27年11月に開催された第43回公開講座『義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る』における演奏、および講演を収録した映像ソフト (DVD) を発行いたしました。

〔収録内容〕

本DVDは日本伝統音楽研究センター公開講座の様子の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

講演：京都と「人形浄瑠璃」「義太夫節」神津 武男

《九段目切》の音楽構成 山田 智恵子

演奏：素浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』

《九段目切 山科隠家の段》

浄瑠璃 竹本 駒之助 三味線 鶴澤 津賀寿

アフタートーク

竹本駒之助 鶴澤津賀寿 (聞き手：神津 武男、山田 智恵子)

講演日時：2015年11月28日 13時30分～
16時30分

会場：ウィングス京都イベントホール

刊行日：平成28年6月30日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



義太夫節 通し狂言の復曲 (DVD) (非売品)

日本伝統音楽研究センターでは平成28年3月に開催された第44回公開講座『義太夫節 通し狂言の復曲』における演奏、および講演を収録した映像ソフト (DVD) を発行いたしました。

〔収録内容〕

本DVDは日本伝統音楽研究センター公開講座の様子の録画を収録しました。

座談会 義太夫節および邦楽の復曲について

出演：後藤静夫、竹内有一、神津武男

司会：山田智恵子

作品解説：『ひらかな盛衰記』神津武男

試演会 『ひらかな盛衰記』序切「栗津合戦」復曲初

演 浄瑠璃：豊竹呂勢太夫、三味線：鶴澤藤蔵

アフタートーク

出演：豊竹呂勢太夫、鶴澤藤蔵、聞き手：山田智恵子、神津武男

刊行日：平成28年11月17日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター

閲覧方法：現在は当センター閲覧室でのみご視聴いただけます。今後、各地の図書館・研究機関にて閲覧いただけるよう準備中です。



第45回公開講座

「雅楽の形と道—唐代雅楽の伝搬と平安期の『雅楽』—」

日時：平成28年10月30日 (日) 14:00～
16:30

会場：京都テルサ 大会議室 (京都市南区東九条下殿
田町70番地 京都府民総合交流プラザ内)

内容：中国唐代の雅楽とはどのようなものだったのか、それが周辺諸国にどのような形で伝搬したのかを、上海音楽学院の超維平教授に、また日本では、唐のどのような音楽を輸入し、日本風

に変化させていったのかを、法政大学のスティーヴン・ネルソン教授を招き、講演していただきます。アジア規模でみた雅楽のお話です。

講演：趙 維平（上海音楽学院教授）、Steven G. NELSON（スティーヴン・G・ネルソン、法政大学文学部日本文学科教授・法政大学国際日本学インスティテュート専任教員）

構成・司会：武内恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）



第46回公開講座

「長唄の形と道一立誠校で今藤政太郎客員教授にきくー」

日時：平成29年2月12日（日）13:00-15:00

会場：元 立誠小学校 3階自彊室（京都市中京区蛸薬師通河原町東入備前島町310-2）

内容：舞伎とともに発達した三味線音楽「長唄」。その歴史と価値を振り返り、京都・日本の音楽文化を展望します。

今藤師は、長唄三味線の演奏と作曲の第一人者として、歌舞伎俳優、和・洋の舞踊家、演出家、映画監督等の厚い信頼を受け、多分野で繊細な感性を発揮されてきました。立誠校・銅駝校などで過ごした戦争前後の思い出、亡父で囃子方家元の四世藤舎呂船との先斗町での指導、古典の様式論、復曲への取り組みなど、貴重な芸談の数々に御期待ください。

講師・お話：今藤 政太郎 < 邦楽家（長唄三味線方・作曲家）、重要無形文化財保持者（人間国宝）、京都市立芸術大学客員教授 >

コメンテーター：時田 アリソン（日本伝統音楽研究センター所長）

構成・司会：竹内 有一（日本伝統音楽研究センター准教授）



第47回公開講座

「『浦上玉堂と催馬楽～江戸時代の催馬楽と『玉堂琴譜』の催馬楽・復元演奏比較～』

日時：平成29年3月5日（日）14:00-16:40

会場：京都市男女共同参画センター ウィングス京都 イベントホール（京都市中京区東洞院通六角下御射山町262番地）

内容：江戸時代の文人で、画家として著名な浦上玉堂は、自ら玉堂琴士と名乗り、画家よりむしろ琴（七弦琴/古琴）の演奏家であると自任していました。そして催馬楽を琴の伴奏で復元し、『玉堂琴譜』を出版しました。

催馬楽は、平安時代に貴族社会で演奏されていた雅楽の一種、歌謡です。その後伝承が途絶えていましたが、江戸時代に復元が試みられました。現在演奏されている催馬楽はそれが元になっているのですが、江戸時代の催馬楽は一朝一夕に完成したものではありませんでした。復元に際してどのような困難があり、それをどのように解決していったのでしょうか。

一方、ほぼ同時代の玉堂は催馬楽をどのように解釈したのでしょうか。玉堂は武士の身分を捨て各地を転々とした後、文人として後半生を京都で過ごしました。玉堂の京都での生活や交流について紹介しつつ、江戸時代に復元された催馬楽と玉堂が復元した催馬楽を、最新の研究によって復元した演奏で比

較します。

講演：高橋 博巳（金城学院大学名誉教授）

遠藤 徹（東京学芸大学教授）

武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

構成・司会：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）



でんおん連続講座

連続講座 A 「音楽としての義太夫節」

講師：山田智恵子（日本伝統音楽研究センター教授）

開講日・時間 平成 28 年 5/11（水）～ 7/13（水）・13:00～14:30（3限）

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1（京都市西京区大枝沓掛町 13-6）

内容：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節の、ことば（詞章）と旋律の関係にスポットを当てます。七五調のことばのリズムや掛詞、発音などに留意して、義太夫節の音楽表現の豊かさを理解することを目指します。

今回は日本版ロミオとジュリエット、『妹背山婦女庭訓』三段目切「山の段」を取り上げる予定です。第 1 回ゲスト 神津 武男（日本伝統音楽研究センター客員研究員・早稲田大学演劇博物館招聘研究員）

開講日程：

5 月 11 日 『妹背山婦女庭訓』の成立・上演史（ゲスト講師：神津 武男）
18 日 義太夫節の音楽構造と三味線の実際
25 日 三段目のあらすじ及び風（音楽様式）の口伝

6 月 1 日 「山の段」の音読と音楽 その 1

8 日 「山の段」の音読と音楽 その 2

15 日 「山の段」の音読と音楽 その 3

22 日 「山の段」の音読と音楽 その 4

29 日 「山の段」の音読と音楽 その 5

7 月 6 日 文楽「山の段」（映像）その 1

13 日 文楽「山の段」（映像）その 2

受講料：5,000 円、定員：30 名



連続講座 B 「能の囃子・音曲の骨組みを理解する」

講師：藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

開講日・時間：平成 28 年 5/11（水）～ 7/13（水）・10:40～12:10（2限）

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1（京都市西京区大枝沓掛町 13-6）

内容：室町時代に成立した能。数時間にもおよび力のこもる演技をしっかりと受けとめるためには、謡の内容理解に加え、囃子や音曲の理解も必要です。

今回は能一番の小段の流れに焦点をあてて、音曲面の組立ての理解を試みます。能の鑑賞歴・稽古歴は長くても「わかった」という実感が得られないと感じられる方、音楽面への関心がある方、ぜひ受講してください。

開講日程：

5 月 11 日 役者の登場
18 日 序：人物の登場（その 1）
25 日 序：人物の登場（その 2）
6 月 1 日 破：人物による物語の展開（その 1）
8 日 破：人物による物語の展開（その 2）
15 日 破：人物による物語の展開（その 3）
22 日 破：人物による物語の展開（その 4）
29 日 破：人物による物語の展開（その 5）

7月 6日 急：物語のはてに働く、舞う

13日 急：物語の結末と祝言

受講料：5,000円、定員：30名



連続講座 C 「常磐津節実践入門 その3」

講師 常磐津 若音太夫(竹内 有一) 日本伝統音楽研究センター准教授、常磐津 音花〈三味線指導補助〉

開講日・時間：平成28年5/17(火)～9/20(火)・10:40～12:10

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1 (京都市西京区大枝沓掛町13-6)

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲「将門」を題材に、作品の構成や特徴、表現技法を考察しながら、浄瑠璃(語り)と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

開講日程：

5月17日 課題設定とビデオ視聴

31日 課題研究(演奏実践)

6月14日 課題研究(演奏実践)

28日 課題研究(演奏実践)

7月12日 課題研究(演奏実践)

26日 課題研究(演奏実践)

8月9日 課題研究(演奏実践)

23日 課題研究(演奏実践)

9月6日 試演会

20日 まとめと評価

受講料：5,000円、定員：10名



連続講座 D 「日本の作曲家を聴く～今年アニバーサリーを迎える作曲家を中心に～」

講師 竹内 直 日本伝統音楽研究センター非常勤講師

ゲスト：大嶋 義実 京都市立芸術大学音楽学部教授

開講日時間：平成28年8/9(火)・8/10(水)

13:00～16:30

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1、および大学会館ホール(京都市西京区大枝沓掛町13-6)

内容：2016年は柴田南雄(1916～1996)、武満徹(1930～1996)の没後20年、松平頼則(1907～2001)の没後15年に当たります。

本講座では、とくに松平頼則に焦点を当講義と実演を通して、その音楽と日本の伝統音楽との関わりを考察します。

受講料：2,000円、定員：30名



連続講座 E 「PENDULUM II 英語による日本音楽概論」

講師：時田アリソン(日本伝統音楽研究センター所長)

開講日・時間：平成 28 年 8/16 (火) ～ 8/18 (木)

10:00～17:00

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1
(京都市西京区大枝沓掛町 13-6)

内容：古くから現在まで伝承されている日本の音楽とその近代的発展を、英語による講義で紹介いたします。英語で日本音楽をどう説明すればよいか、日本人と留学生と一緒に考えながら、手軽に日本の音楽文化について大まかな理解を得ることを目指します。

雅楽・声明・そして語りの音楽(平家・浄瑠璃)と演劇(能・文楽・歌舞伎)との関係や、器楽(三味線・箏・尺八)について講義に加え、体験的なワークショップを行います。*この講座は英語で行います。



連続講座 F 「常磐津節実践入門(その4)」

講師：常磐津若音太夫(竹内有一、日本伝統音楽研究センター准教授)

開講日・時間：平成 28 年 11/8 (火) ～平成 29 年 3/7 (火) 【全 8 回】 火曜日・10:40～12:10

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1
(京都市西京区大枝沓掛町 13-6)

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の構成や特徴、表現技法を考察しながら、浄瑠璃(語り)と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

開講日程

11 月 8 日 課題設定とビデオ視聴

22 日 課題研究(演奏実践)

12 月 6 日 課題研究(演奏実践)

1 月 10 日 課題研究(演奏実践)

24 日 課題研究(演奏実践)

2 月 7 日 課題研究(演奏実践)

21 日 試演会

3 月 7 日 まとめと評価

受講料：5,000 円、定員：10 名



連続講座 G 「京都の琴(その2)」

講師：武内 恵美子(日本伝統音楽研究センター准教授)

開講日・時間：2017 年 1 月 28 日(土)・2 月 4 日(土)・2 月 11 日(土・祝)

【全 3 回】各 13:00～16:10

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1
(京都市西京区大枝沓掛町 13-6)

内容：昨年度に引き続き、江戸時代の京都で琴を演奏した人物を取り上げ、京都における琴の世界のあり方やどのような関係性が保たれていたのかを紹介いたします。毎回琴の演奏体験講座も行う予定です。

受講料：3,000 円、定員：30 名



連続講座 H「音楽実践をもって徳を積む～平安後期・鎌倉期の管絃講（往生講式）、そのころ～」

講師：田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

1. 2017年3月10日（金）13:00～16:10
2. 2017年3月11日（土）14:30～16:30

会場：1. 京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室 1

2. 真宗高田派本山 専修寺京都別院

内容：平安後期には、法華経などが説く音楽供養による功德をもって往生／成仏をめざす「管絃往生」思想が僧や公家に広まります。それを実践する講会が管絃講（往生講式）です。阿弥陀浄土を讃嘆する式文と、唄をつけた雅楽曲とが交互に配されます。

2日目には、楽譜史料から推定される当時の雅楽の音楽様式により管絃講を行います。

受講料：1. 1,000円、2. 志納（＊2）

＊2日目にご来場の皆さまからお預かりした浄財は、東日本大震災・熊本地震など災害復興義援金として全額寄付いたします。

定員：30名



伝音セミナー

◇第1回 5月12日 子どものためのレコード

日本の子どものために作られたレコードの歴史は古く、明治の出張録音期からすでに唱歌が三味線音楽や謡曲とカタログ上で肩を並べていました。大正に入るとお伽劇、お伽歌劇といった新しいジャンルが生まれ、大人達は子どものために手の込んだレコード作りに心血を注ぎます。今回は北村季晴作「ドンブラコ」（大正2年発売、5枚10面）を中心に、巖谷小波・佐々紅華作「ウサウサ兎」、「ウトコ爺さん」、小波

自身の朗読による「正直正吉」などをお聴きいただきます。

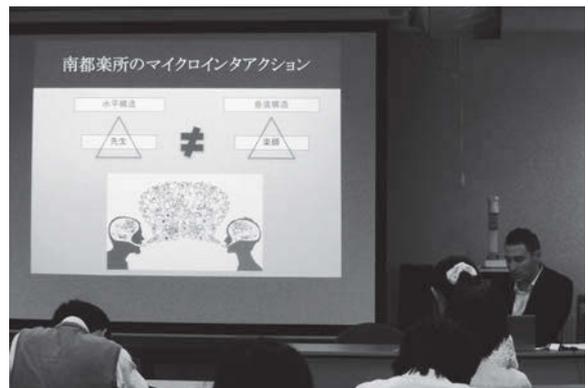
進行役：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）



◇第2回 6月2日 現代日本における雅楽の「面白さ」

「日本の雅楽をどう思いますか？」この問いに、日本の若者の多くは困惑するでしょう。彼らにとって雅楽はエキゾチックなのです。一方で私のような海外の若手研究者にとって、日雅楽が有する長い歴史やステータス体験・交流をふまえて、雅楽の音楽、またその伝承を支える人々の魅力について語ります。

進行役：アンドレア ジョライ（国際交流基金フェロー）



◇第3回 7月7日「松坂」をたどる

「松坂」という名の付いた民謡や、これを起源とされる民謡は日本各地で広く歌われています。

今回は『日本民謡大観』などに収められた論考などを頼りに、「松坂」の聞き比べをすることで、民謡が伝承・伝播していくなかでどのように変化していくのか

を考えます。

進行役：梶丸 岳(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)



◇第4回 8月4日 昭和の関西歌舞伎の音楽を聴く

昭和の関西歌舞伎を支えた杵屋富造(1902～1977)と杵屋胡金吾(1921～2009)。この二人に関する知られざる録音が、この度発見されました。その貴重な音源と関連資料をたよりに、かつての上方歌舞伎の黒御簾音楽に迫ります。

進行役：前島 美保(日本学術振興会特別研究員)、竹内 有一(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第5回 9月1日 『玉堂琴譜』の再現

琴(七絃琴/古琴)は「減字譜」という専用の楽譜を用います。この楽譜は他の楽譜と同様、記譜の限界と問題を抱えており、残念ながらリズムが記載されないため、伝承が途絶えてしまい、楽譜だけ残っている曲の再現には再現する人の解釈が入る余地があります。今回は江戸時代の日本人で琴を演奏した浦上玉堂の記した楽譜『玉堂琴譜』の再現例を聴き比べることで、打譜と呼ばれる琴曲の再現について考えます。

進行役：武内 恵美子(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第6回 11月10日 日本の作曲家を聴く(その2) ～能と日本の現代音楽～

能と日本の現代音楽、この二つの領域はどうやら相性が良いようで、多くの作曲家が能に取材した作品を書いています。今回は、同じ題材にもとづく作品を中心に音源を聴いてみたいと思います。

進行役：竹内直(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)



◇第7回 12月1日 舞楽いろいろ(その2)～映像でめぐる地方の伝承～

舞楽には宮内庁式部職楽部など中央の伝承に対し、日本海沿岸や静岡・宮城など地方に舞楽の伝承があります。両者は曲名や装束に多少の共通点があるものの、音楽や舞には著しい相違があります。講師が長年撮りためた映像により、地方舞楽の世界をご紹介します。

進行役：田鍬智志(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第8回 2月2日 徳川夢声で聴く小説『宮本武蔵』

昭和10年から14年にかけて新聞に連載された吉川英治の小説『宮本武蔵』は国民的人気を博し、今に至るまで様々なメディアで表現され続けています。

今回は、大正から昭和にわたり多分野で活躍した徳川夢声の朗読による、昭和38年のレコード音源（音楽・効果音つき）をとりあげ、名場面を中心にお聴きいただけます。

進行役：中安真理（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）



◇第9回 3月2日 下掛宝生流の謡を聞く

能のワキ方は、主役のシテの物語を引き出す大事な役割を果たします。近年京都でもお馴染みになった下掛宝生流は、明治の宝生新をはじめ数々の名人を輩出して近代の能を牽引してきました。また一方で、ワキ方は謡の専門家として謡文化の興隆を支えてきました。流儀の歴史や謡の特徴に触れながら、下掛宝生流の名演をお聴きいただけます。

進行役：高橋葉子（日本伝統音楽研究センター客員研究員）



所長サロン

http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/events/directors_salon/index.html

「所長サロン」は、大学全体の方に声をかけて、ランチタイムに、お弁当を持ち込んで食べながらお話を聞いてもらう形式です。

2016年の所長サロンのテーマは「日本音楽の将来」に設定しました。それぞれのゲストに、ご自分の音楽歴について語っていただき、面白いエピソードをたくさん聞かせていただきました。目的は、日本の伝統音楽との関わり方を探ること、西洋音楽が主流になっている日本における伝統音楽の位置づけと問題点、音楽教育と伝統音楽の関係について一緒に考えることでした。

◇第1回 4月12日 ゲスト：鷺田清一氏

哲学者で、京都市立芸術大学学長の鷺田先生が、40歳代のときに初めてピアノを習った体験談は特に印象的でした。以下、伝音所員によるフェイスブックへの投稿を紹介します。

「お子さんと一緒にピアノ教室に通ったこともあるという鷺田先生。ツェルニーまで進んだけど、発表会でショパンのノクターンを弾け、といわれ、無理だとさってピアノやめてしまわれたそうです。「何事もムリとおもったらいさぎよくやめる」のがモットーだとおっしゃる鷺田先生。

40代まで日本音楽や芸能にはまったく興味なかったそうです。琉球大の集中講義の後のコンパで、学生たちが当たり前のように沖縄民謡歌う姿をみてハッとさせられたとおっしゃいます。一体の人形を扱うのに、3人の人形使いがいてセリフや心情は太夫という

別の人がこなす文楽の世界、一つの物事こなすのに
たくさんの人が分担して関わるのが日本文化の特徴
でそこが興味深いポイントだとおっしゃいます。」(田
鎌智志)



◇第2回 5月19日 ゲスト：大嶋義実氏

世界的に演奏活動されているフルート奏者で、本学音楽学部長の大嶋先生は、笛吹は瓶でも、丸いものを見れば吹きたくなるので、もちろん尺八を吹いてみたことがあるとのことでした。無理に音楽を押しつけないで、面白いと思う人たちがいれば良いということ、いい仕事に就職したい人はこの大学に来ないでほしいという見方でした。つまり、日本の音楽を押し付けしないで、「音楽の面白さ」に任せておいてもいいだろう、とのご意見でした。

「ベルリンの壁崩壊前の共産体制下のチェコ。プラハ放送交響楽団初来日の際の、日本での団員発掘オーディションにみごと合格され、フルート団員として活躍された大嶋教授が今回の所長サロンのゲスト。

景気など関係なくいつの世でも職にありつけない芸大音楽の卒業生たち。しかし、どんなに貧乏でも(フツの企業に就職するようなヤツラよりも)楽しそうに生きているぞ!(楽しく生きられる!)ということ、発信していきたい!就職したけりや芸大なんか来るな!と爆弾発言連発の大嶋学部長さんです。日本音楽にかんしてもズケズケいわれます(ww)。価値観は人それぞれで何が正しいわけでも間違いでもないですが、私(レポーターT)的には共感するところ大です。以下、ご発言のいくつか紹介します!」(田鎌智志)



◇第3回 6月9日 ゲスト：常磐津都毘蔵氏

「都毘蔵師は常磐津節を専門とする家系に生まれ、家の中で常磐津節が常に聞こえる環境で育ち、覚えるともなく身についたそうです。昔と今とでは教え方に变化があること、常磐津節では三味線がコンダクターのように語りや踊りの流れを導いていくこと、現在では語りと三味線方が分かれているが、本来は両方とも会得した方が良いこと、主催されている研究会では古曲の演奏にも力を入れていること、などなどを優しい語り口でお話しいただきました。」(中安真理)



◇第4回 7月1日 ゲスト：金剛永謹氏

「能の舞台に立つ心構えや能楽師の養成、海外公演の様子や金剛流の普及活動などさまざまなことについて、穏やかな語り口でお話しいただきました。最後に面(おもて)についての質問へのお答えのなかで、能面は無表情であるが、良い面が滲えているのは単なる無ではなくあらゆる表情を含みこんだ無である、という深いお話も。

現代日本における能のあり方から能の哲学まで、能が持つさまざまな「面」を伝えていただいたように思います。どうもありがとうございました。」(梶丸 岳)



◇第5回 7月28日 ゲスト：今藤政太郎氏

人間国宝、本センターの客員教授、長唄の囃子方の家に生まれ、長唄三味線方になり、三味線の演奏活動と映画音楽を含む作曲活動を展開、その両方で様々な受賞歴があります。多くの海外公演において立三味線を務めています。

「本日客員教授の今藤政太郎師を迎えて第5回所長サロンを実施いたしました。キーワードは形と心、伝承と伝統の相違、作曲とこしらえもの等々。「様式は普遍的なルールではなく、伝統には可塑性がある」「日本音楽の価値を知り、その問いかけに応える義務がある」など、非常に幅広く活動されてきた今藤政太郎師ならではの名言が数々飛び出しました。」(武内恵美子)



◇第6回 10月20日 ゲスト：三好荒山氏

都山流尺八奏者で、活動の中心は京都。

12歳のとき都山流・富井舜山に入門。39歳のときに尺八界最高の称号「竹琳軒」になられます。アメリカ、中国、モロッコ、中近東を訪問。さらに海外からの招聘で、ドイツ、フランス、スペイン、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、数多くの公演を行っています。日本の伝統文化を継承するにとどまらず、クラ

シック音楽、ジャズ、ロックとのクロスオーバー等ジャンルを超えて、尺八の楽器としての可能性の追求に情熱を燃やしています。邦楽アンサンブル「みやこ風韻」の段長として活躍しています。

「京都＝邦楽のメッカとおもわれがちですが、荒山さんのような生粋の関西演奏家はすくなく、いても東京方面に流れていっちゃうか、東京（芸大卒）の人を呼んでくるか、東京におんぶにだっこ状態が現実です。京都では子どもの邦楽教育体制がほとんど成り立っていないことに、危機感を抱いていらっしやいます。古典の演奏のみならず新作曲の演奏に、たいへん精力的な荒山さん。武満徹ノベンステップスの尺八・琵琶ソロのような図形的楽譜は、一般には、難解で演奏家泣かせと思われがちですが、荒山さんにしてみれば、(五線譜よりも)とっつきやすいそうです。そんな話にある作曲専攻の院生さんは、熱心に聞き入っていました。」(田鍬智志)



◇第7回 10月27日 ゲスト：趙 維平氏

趙先生は上海音楽学院教授、音楽学部長です。大阪大学で日本と中国の雅楽についての研究、中国の伝統音楽教育は音楽院で大切にされています。

日本音楽史を研究対象とし、日中、東アジア圏での比較もされており、その研究業績は中国語、日本語、英語で数多く出版され、国際的に高く評価されています。今回、日本伝統音楽研究センターの招聘にて来日。趙氏の研究テーマである日本の雅楽と中国の雅楽・東アジアとの比較について意見交換及び講演を行い、日本伝統音楽の研究発展に寄与するとともに今後の両国の研究、そして伝統音楽教育の方向性や協力体制等を検討しました。

「第7回所長サロンは上海音楽学院の趙維平先生をお

迎えして実施しました。中国の音楽教育の状況、日本音楽を研究することについて等、様々なことをお伺いいたしました。」(武内恵美子)



◇第8回 11月24日 ゲスト：大谷祥子氏：

「今回のゲストは、大谷祥子さん。生田流の箏・三絃の演奏家として活躍しておられます。家元と門弟は本来どういう関係であるべきか、流派・門閥とはどうあるべきか。また、現代曲ならではの特色と価値をどう捉えて演奏家として対峙していくのか、などなど、箏曲界の現状とご自身の豊かな経験を踏まえた具体例を交えながら、日本音楽のより良い将来に向けたメッセージをおうかがいしました。フロアには、教職員や学生のほか、国内外の演奏家もお見えになって日本音楽の未来について歓談。国際的なサロンになりました。」(竹内有一)



図書館

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。(資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行

物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等)

- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・本学の教職員(非常勤を含む)／学生
- ・調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

- ・開室日時 毎週水・木・金曜日 10時～17時
- ・休室日 月・火・土・日曜日、
「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

最新情報は web サイトでご確認ください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・当室所蔵のCD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

- ・毎週水・木・金曜日 10時～17時

○その他

- ・本学教職員(非常勤講師を含む)及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

図書室での企画

- ・閲覧室では図書室スタッフによる当センター所蔵資料のおすすめ本を紹介しています。

今年度は日本音楽一般、雅楽、能・狂言・義太夫節・文楽などの本や CD・DVD を紹介しました。

来訪者

- * 2016.05.18 アンゴラ・ルアンダ市、カポソカ音楽学院の学生オーケストラ、院長の Pedro Fançony 氏、アンゴラ大使館領事、Helder J. Teixeira Congo 氏
- * 2016.05.30 Margaret Kartomi モナシユ大学音楽学部教授
- * 2016.07.14 Francis Biggi ジュネーブ高等音楽院教授
- * 2016.07.22 文化市民局の北村局長・吉岡課長・原係長
- * 2016.09.02 朴 実氏、京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」専務理事
- * 2016.09.13 Denis Gainty 氏、ペンシルベニア大学、日本ブルーグラス研究家
- * 2016.10.06 廣瀬周平氏、山上友佳子先生
- * 2016.10.28 広島加計学園・英数学館中・高等学校・中学生と Jane Humphrey 先生
- * 2016.12.06 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課 計画推進担当課長 吉岡久美子と、京都文化交流コンベンションビューローの職員
- * 2016.12.08 Elizabeth Nunley and David Blair 俄 (NIWAKA) Discover Kyoto 編集部、ライター・ナンリー・エリザベス氏
- * 2017.02.02 オタゴ大学教授・Henry Johnson
- * 2017.02.07 Kiku Day 氏、尺八奏者、デンマーク

特別講演

- * 2016.06.30. Stéphane Orlando, Arts Conservatory of Mons, Belgium, Film music accompaniment strategies in Silent Movies since 1895.
- * 2016.07.04 Professor Francis Biggi Professor and Head, Département de Musique Ancienne, Haute École de Musique de Genève, The sound of silence: Reconstructing lost voices. The Italian tradition of singers of tales from the Renaissance to modern times.

短期滞在者

- * 2016.06.28 ~ 07.21 Stéphane Orlando, Arts Conservatory of Mons, Belgium
- * 2016.10.26 ~ 11.03 上海音楽学院・趙維平教授
- * 2015.10.01 ~ 2016.09.30 ライデン大学博士課程在学学生、国際交流基金フェロー Andrea Giolai